

平和運動センター通信 原水禁ヒロシマニュース

No. 219
2019年
7月号
(7月1日)

- 発行：広島県平和運動センター
原水爆禁止広島県協議会（広島県原水禁）
- 〒733-0013 広島市西区横川新町7-22 自治労会館 1階
- Tel:082-503-5855 FAX:082-294-4555
- E-mail:h-heiwa@chive.ocn.ne.jp
- 広島県原水禁 ホームページ <http://www.hiroshimaken-gensuikin.org/>
- ブログ：<http://kokoro2016.cocolog-nifty.com/shinkokoro/>

発行責任者
渡辺 宏
(事務局長)

—子どもや孫たちに、戦争も核もない、美しい地球を！—

安倍強権政治を止めることができるか、それともだれも望まない改憲と軍備増強に向けてさらに突き進ませてしまうのか。今回の参議院選挙、安倍総理は若年層の取り込みが左右するとみて、若手俳優やタレントとのアップをSNSで配信するなどやりたい放題。胸糞が悪いと嘆いていても始まらない。具体的な政策での安倍政権との違いを論じることができる宣伝活動が問われている。

この度フォーラムも構成員である「市民連合」が分かり易いパンフを作成。末尾にその内容を紹介しますので活用願います。

— 目 次 —

- 1P：目次・当面の日程
- 2P：2019 部落解放・人権啓発講座（6月2日：三原市芸術文化センター）
- 3P：総がかり行動（6月3日：本通り青山前）
- 4P：第30回ヒロシマの旅（5月31日～6月2日）
- 6P：被爆74周年原水禁大会実行委員会結成総会（6月19日：自治労会館）
- 7P：国会閉会・全国統一総がかり街頭行動（6月26日：本通り青山前）
- 8P：高校生平和大使がローマ法王に謁見

(資料) 原水禁世界大会・広島大会日程表
参議院選・自公政権と立憲野党共闘の政策対峙の内容
総がかり行動街頭ビラ (6.26 配布分)

(7月・8月の主な取り組み)

- 7月 3日：第38回反核平和の火リレー出発
- 7月17日：平和運動センター幹事会・地区労代表者会議及び
原水禁大会第2回実行委員会（自治労会館）
- 7月26日：原水禁大会事務局配置・反核平和の火リレー到着式
- 7月27日：非核平和行進・東部コース開始
- 7月30日：非核平和行進・北部コース開始
- 8月 1日：非核平和行進・西部コース開始
- 8月 3日：非核平和行進到着式
- 8月4～6日：被爆74周年原水爆禁止世界大会・広島大会
- 8月7～9日：被爆74周年原水爆禁止世界大会・長崎大会

改憲問題と外国人労働者問題から憲法と人権を学ぶ

6月2日三原市芸術文化センター（ポポロ）に750人が参加し、「2019 部落解放・人権啓発講座」が開催されました。主催者を代表して、広島部落解放研究所理事長の淵上和俊さんの開会あいさつ後、「部落解放同盟広島県連合会再建 50年の歩み」が映像で紹介されました。続いて二人の講師から「改憲問題と外国人労働者の実態から人権問題と共生社会を考える」と題して講義がありました。

講座1では弁護士の伊藤真さんが「日本国憲法は、①基本的人権の尊重、②戦争放棄という目的を果たすために③主権在民という手段によって実現するという基本原理を前文で明らかにしている。自由、権利を保障させるために声を上げて主体的に行動すること」が大事。そして「国民投票により自衛隊が憲法上の国家機関と位置付けられると、人を殺せる意思と能力を与えることとなり、国防ということが人権の制約の根拠になる。悲惨な戦争の歴史を知り想像力を働かせて憲法の理念に現実を近づける責任がある」と力強く訴えられました。



講演する伊藤真さん

講座2では広島国際学院大学教授の伊藤泰郎さんから外国人労働者問題と共生社会についての講義がありました。伊藤さんは、国籍・地域別の在外国人数の推移ではベトナム、ネパール人が急増していること。在留資格の構成比は永住者、技能実習生が高まっているという近年の動向や、労働法令違反や人権侵害が多発していること、家族の帯同規制や転職の要件を厳しくされていること、職業訓練予算が少ないことなどを例に挙げて、移民の権利に関する政策の不備など、外国人労働者の人権がないがしろにされていることを強調され、外国人との「共生社会」の在り方が問われました。

今後も平和運動センターは部落解放広島県共闘会議に結集し、当面の学習会として9月29日に開催予定の「2019 部落解放・人権政策の確立を求める広島県民集会」に参加をしていきます。

ヒロシマ総がかり行動「3の日・定例街直行動」

「憲法を変えるな 政治を変えよう！」と呼びかけた「戦争をさせない・9条壊すな！ヒロシマ総がかり行動実行委員会の6月定例街直が、6月3日の午後5時半から1時間、本通電停前で行われました。

歌声9条の会のメンバーによる歌声で始まった行動は、チラシを配布しながら、署名への協力を呼びかけました。帰宅途中の時間帯ということもあり、なかなか足を止めて署名に協力していただく人は少なかったのですが、石口新事務局長をはじめ参加者が次々とマイクを握り、「安倍政権による9条改憲は絶対に許さない」「国民の暮らしを無視して戦争への道を突き進む安倍政治の退陣を求めよう」などなど、それぞれの思いを訴えました。



その中で強調されたのが、参議院選挙への訴えでした。「市民一人ひとりの力で、選挙によって安倍政権を退陣に追い込みましょう」「いま全国でそのための野党共闘が進んでいます。広島も力を結集しましょう」

演説の最後に「戦争をさせない！ヒロシマ1000人委員会」の県原水禁代表委員の金子哲夫さんが次の二つのことを訴えました。「丸山議員の『戦争発言』は決して許されませんが、もっと重要なことは同行された大塚団長の『戦争なんて言葉使いたくないです、使いたくない』『戦争は必要ない』と答え続けられたことです。先日聴いた被爆者の証言の中



でも、『原爆が落とされたのは戦争があったから。戦争は絶対にしてはならない』と訴えられました。戦争を体験された人たちのこの声をしっかり聴かなければならないのです。憲法9条を変えることは、戦争をする国を作ることです。このことを考えてください。」と。二つ目は今の国会の問題です。国会が開会中なのかどうかもわからない状況を受け、次のように訴えられました。「トランプ大統領とどんなことを話したのか国民に説明しなければなりません。それを行うのが国会です。また5月のNPT再検討準備会議は、意見をまとめることができませんでした。これからの一年間、日本政府は来年のNPT再検討会議でどんな役割を果たそうとするのか、果たすべきかを真剣に国会が議論することを私たち広島は強い関心を持って見ています。論議すべき課題は山積しています。こうした重要な課題をしっかりと論議することこそが、国会の役割のはずです。

参議院議員選挙が始まりましたが、今の政治への市民の関心はまだまだ薄いのが現状です。だからこそ、組織された労働者が政治に関心をもって改革の先頭に立つことが求められています。

語りつごう 走り続けよう ヒロシマ・ナガサキの心を

—第30回ヒロシマの旅

全国各地で続いている反核平和の火リレーを主催している日本平和友好祭実行委員会が、毎年この時期に実施している「ヒロシマの旅」が、30回目を迎えた今年も、5月31日から6月2日までの3日間開催されました。

今年は、全国から青年・女性50名（スタッフを含め）が参加し、資料館見学、講演「ヒロシマの旅30年を迎えての課題」、大久野島の見学、被爆証言を聞く、平和公園



の碑めぐりなど、様々な企画に参加し有意義な3日間を被爆地広島で過ごしました。

「ヒロシマの旅」が始まったのは、1982年に広島で始まった「反核平和の火リレー」が全国各地に広がる中で、「語りつごう 走り続けよう ヒロシマ・ナガサキの心を」

というのであれば、反核平和運動の原点である「被爆の実相」をしっかりと学び、運動をより広げていこうということでスタートしたものです。毎年全国で原水禁大会や8月6日を前にして実施される反核平和の火リレーが出発する前の、この時期に実施されています。今年も、30回目の節目の開催ということで、当時この運動に関わっていた県原水禁代表委員の金子哲夫さんに声がかかり、初日の講演を引き受けられました。

（以下激励の挨拶を行った県原水禁代表委員の金子さんからの報告を紹介します。）

2日目の大久野島の見学には参加することができませんでしたが、最終日の行事には私も参加しました。「被爆証言」は、12歳の時建物疎開の動員中に皆実町の元広島師範学校の校庭で被爆された平野貞雄さんの話。平野さんは、近所に住む豊永恵三郎さん



に強く勧められて10年ぐらい前から証言を始められてそうです。平野さんのお話は「一瞬のうちに大やけどを負い、すぐ後に襲った物すごい爆風に吹き飛ばされた体験」とともにその後「ケロイドが残り」差別を受けながらの人生となった自らの被爆体験を語るとともに、むしろ愚かな戦争への道を進んだ当時

に日本のあり様を厳しく批判されたのが特徴的でした。さらに、「核廃絶」を訴え続ける被爆者の声を無視する日本政府に対しても「許せない」と訴えかけるとともに、参加者に「核廃絶を訴え続けてほしい」と呼びかけ、平野さんの話は終わりました。参加者の感想の中でも「原爆被爆は勿論だが、戦争ということを実際に考えさせられるヒロシマの旅になった」という声が多くありました。ところで、その2時間後に豊永さんにお会いした時教えられたのですが、平野さんは、広島県被団協が呼びかけて2009年に発刊された「『空白の十年』被爆者の苦闘」にも貴重な体験を寄稿されています。私も自宅に帰ってすぐにこの本を探し出し、平野さんの手記を読みました。もし手元があれば、ぜひ読んでほしいと思います。

「ヒロシマの旅」参加者は、平野さんから証言を聞いた後、平和公園碑めぐりへと移動しました。3班に分かれた参加者への案内は、事前学習を積んだ地元広島実行委員会のメンバーが行いました。こうした企画は、広島の青年が学ぶ機会を作ることにもなっています。約1時間半余りの日程での碑めぐりでした。



写真は、第38回広島県反核平和の火リレー出発式（7月3日）

碑めぐり終了後は、慰霊碑前に全員が集合し、この「ヒロシマの旅」のもう一つの目的である「平和の灯」からの採火が行われました。この日採火された火は、全国の参加者がそれぞれ持参したカイロなどに移し、地元で実施する平和の火リレーの種火として持ち帰りました。「反核平和の火リレー」や「ヒロシマの旅」のスタートに関わったものの一人として、全国で若い人たちに運動が受け継がれていることに感謝するとともに、これからも継続してほしいと願わずにいられません。（金子哲夫）

被爆74周年原水禁世界大会広島県実行委員会が発足

被爆74周年原水爆禁止世界大会を成功させるための広島県実行委員会結成総会が、6月19日午後6時から自治労会館で開催されました。この結成総会には、被爆者や原水禁会員、労働組合員、市民団体代表など80名余りが参加し、8月4日から始まる原水禁世界大会広島大会の日程やそれぞれの役割分担などを話し合いました。



金子哲夫県原水禁代表委員の開会あいさつで始まった総会は、最初に先日全国の仲間と結団式を終えた高校生平和大使のうち、北畑希美（のぞみ）さん（広島県立広島県立広島高等学校2年生）と牟田悠一郎さん（広島市立基町高等学校2年生）のふたりが決意を述べました。

その後今年も秋葉代表委員から「問題提起のための講演」がありました。タイトルは「核兵器禁止条約採択以降の世界の日本の状況」で、これまでの国際社会の核兵器絶滅運動の歴史や方向性を解説しながら、私たちの運動の「本丸」である日本政府の政治姿勢をわかりやすく解説するとともに、今年の私たちの活動の舞台は、「日本国内」だと強調されました。特に、都市の力が重要であること、そしてそれを動かすのが私たち市民の力だと指摘するとともに、具体的には395自治体に広がった「核兵器禁止条約支持決議

・日本も批准すべし決議」をさらに広げることが重要だという課題提起がありました。最後に「原水禁大会の役割」として「『未曾有の厳しさ』への対策を練る、そのためには、全国の怒りを顕在化させ大きくまとめる、『新しいアプローチを作る』ことなどが強く訴えられました。



秋葉代表委員の講演の後は、渡辺事務局長からの「大会のスローガン（案）」の解説や「組織の構成・役割」「大会の日程、分科会のテーマ」などを中心に現地実行委員会としてこれから取り組むべき課題が提起され、それらを全体で確認し、結成総会は終了しました。なお全国からリレーされた「被爆74周年原水禁 非核・平和行進」は、東部コースは7月27日に、西部コースは8月1日に広島入りする日程が提起され、それぞれの地区で例年通りに取り組むよう

要請しました。なお毎年広島県独自で実施している北部コースも例年通り、7月30日に庄原市を出発することになっています。

今年のメインスローガンは次の通りです。

核も戦争もない平和な21世紀に！

憲法改悪反対！沖縄辺野古に基地をつくるな！

めざそう平和と核兵器廃絶・脱原発社会！

詳しい大会の日程などは末尾に紹介します。また、毎年関連行事として取り組まれている「反核平和の火リレー」は、今年は7月3日に平和公園慰霊碑前を出発し、26日まで走り継がれることになっています。

国会閉会—参議院選挙へ 総がかり行動実行委員会 頭から訴える

今年の通常国会は、150日の会期を終えた6月26日に閉会し、参議院選挙に突入しました。「戦争をさせない!・9条壊すな!ヒロシマ総がかり行動実行委員会」は、国会の閉会日となった26日午後5時半より本通電停前で街宣活動を行いました。



雨が降り始める中、50名の参加者がそれぞれチラシを配布するとともに、代表して7名が次々とマイクを握り、仕事を終え帰宅を急ぐ市民に訴えました。

「今国会で、本当に私たちの声が論議されたと思いますか。老後資金2000万円問題もそうですが、選挙に都合が悪いことには

ホウカムリして、国民には説明しない」「国会での論議を尽くさず、国民に背を向け続けてきた安倍政治に終止符を打つため、今度の参議院選挙が重要です」「仕方がないとあきらめるのではなく、選挙で必ず投票することで、自分たちの意思を明らかにすることで必ず政治は変わります」「今度の選挙で、自公など改憲議席の三分の二割れに追い込むことが、憲法改正をストップさせることになります」などなど。



それにしても今国会ほど、国会審議がないがしろにされたことはありません。参議院選挙を意識した政府・自公政権は、論議を呼びそうな重要法案はすべて先送りにし、野党から強い要求があった予算委員会も4月以降は全く開催しませんでした。テレビでの国会中継は、予算委員会や重要法案を審議する委員会などしか行われませんので、今国会のように4月以降の約3か月間も予算委員会が開催されない場合は、国民が国会審議の状況を間近に見ることはできません。年金問題だけでなく、例えば、いま深刻な問題となっているペルシャ湾情勢などに政府がどう対応するのか、アメリカトラ

ンプ大統領の「船舶への攻撃はイランが行った」という主張は本当にそうなのか、などなど国民が知りたいことはたくさんありました。こうしたことに正面から向き合って徹底して論議することこそ、国会の役割だったはずですが、かつて国会改革だといって導入された党首討論もしかりです。今国会で開催されたのは1回だけです。しかもたったの45分間でしかありませんでした。こうした国会状況を招いているのは、6年以上続く長期政権の弊害そのものです。まさに自民党内に広がった安倍村度政治の結果です。自民

党は国会論議を避け、数の力で採決を強行してきた安倍政権には、終止符を打つしかありません。そのチャンスが今度の参議院選挙です。

参議院選挙の日程も確定し、いよいよ7月21日の投開票日をめざした運動が、待ったなしでスタートしました。参議院の広島選挙区は、定数が2名です。今自民党は定数2名の選挙区のうち全国で唯一2名を擁立しているのが、ここ広島選挙区です。私たちが訴えてきた、憲法改悪阻止、平和と民主主義を守ろうとする力が試される選挙となっています。決して自民党に2議席独占を許すことはできません。その決意も固める街宣行動でした。

(ニュース最頁に街頭ビラを掲載しています。)

高校生平和大使がローマ法王に謁見

(原水禁ニュースより)

2019年11月にローマ法王が訪日予定であることを受け、高校生平和大使2名が6月



16日から20日にかけてバチカン市国を訪問し、ローマ法王一般謁見に参加しました。平和大使2名は、特別謁見として、被爆直後に撮影された写真などを手に、核なき世界の実現を直接訴えました。

ローマ法王(写真右)に被爆写真を見せる高校生平和大使の松田小春さん(広島大学付属高等学校2年・左から2番目)

原水禁は平和運動の担い手として大いに期待がよせられる高校生平和大使、高校生1万人署名活動を支援していきます。

(編集後記)

核兵器禁止条約の採択から2年が経つ。県内の反核団体をはじめ被爆者団体が、8月6日の広島市長が行う「平和宣言」に、日本政府に対して「核兵器禁止条約への署名・批准」を促すことを求めている。県原水禁も賛同するとともに独自にも別掲の申入れを7月8日に行う。

原水禁大会ではできるだけ意識して若い世代の参加を促してほしい。動員というだけでなく、未来を見つめ考えてみる機会として誘い合ってほしい。参加者の半数が30歳代以下の世代の参加者だという大会にしたいもの。奮闘を願うばかり。